

**令和7年度 公社等経営評価シート**  
(対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日)

概 要	名 称	一般社団法人宮崎県酪農公社		所在地	都城市御池町無番地		
	電話番号	0986-33-1816		ホームページ	<a href="http://m-chikusan.jp">http://m-chikusan.jp</a>		
	設立年月日	昭和43年8月12日	代表者	理事長	平島善範	県所管部・課	農政水産部畜産局 畜産振興課
	総出資額	160,580 千円		県出資額	80,000 千円	県出資比率	49.8%
	設立目的	県内における畜産農家の乳用育成牛預託に係る哺育、育成及び家畜の能力検定、乳用牛・肉用牛の育成・繁殖等を行うことにより、畜産の近代化を強力に推進するとともに、家畜の生産改良を促進し、もって当該地域の農業生産力の増強と農業者の経済的社会的地位の向上を図ることを目的とする。					
特記事項							

内容		令和5年度	令和6年度	令和7年度		
改革 工程	①公社等のあり方 見直し	(実績)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。	(計画)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。 (実績)乳用牛共同哺育・育成事業を実施し公共牧場として運営。	(計画)令和7年3月18日の臨時総会において、令和7年9月30日をもって公社を解散することを決定。		
	②公社等の経営見直し	経営・事業 運営改善	(実績)令和6年度を目標とする経営改善計画に基づき、運営改善を実施。	(計画)令和6年度を目標とする経営改善計画に基づき、運営改善を実施。 (実績)令和6年度を目標とする経営改善計画に基づき、運営改善を実施。	(計画)令和7年3月18日の臨時総会において、令和7年9月30日をもって公社を解散することを決定。	
		財務改善	単年度黒字化 累積欠損金の削減	(実績)飼料や資材の高止まりの状況が続く中で、預託頭数の確保ができなかったことに加え、乳用牛部門の低成績牛の淘汰に伴う出荷乳量の減少等により、単年度黒字を達成できなかった。	(計画)預託サービスの向上と推進活動により、預託頭数を確保するとともに、生産コストの縮減に取り組み、単年度黒字化を達成する。 (実績)飼料や資材の高止まりの状況が続く中で、県内酪農家戸数や乳用牛飼養頭数の減少から、預託頭数を確保することができなかった事に加え、乳用牛部門で計画的廃用を進めたことによる出荷乳量の減少等により、単年度黒字を達成できなかった。	(計画)令和7年3月18日の臨時総会において、令和7年9月30日をもって公社を解散することを決定。
		組織等適正 化	効率的な組織体制の構築 経営管理技術及び生産技術の向上	(実績)県外からの外部講師や、畜産試験場の研究員による指導を仰ぎ、技術向上を図った。	(計画)施設規模・頭数規模にあった人員配置・組織管理を行い、更なる効率化を図り、人材育成に努める。 (実績)県外からの外部講師や、畜産試験場の研究員による指導を仰ぎ、技術向上を図った。	(計画)令和7年3月18日の臨時総会において、令和7年9月30日をもって公社を解散することを決定。
③県と公社等の関係見直し	人的支援見直し	運営改善を図るための指導体制の維持	(実績)月に1回の実績検討会や四半期毎の経営改善チーム会議による経営改善指導を実施。	(計画)酪農公社の経営の自立化を図るために、経営改善チーム会議や実績検討会による継続的な経営改善指導を実施する。 (実績)月に1回の実績検討会や四半期毎の経営改善チーム会議による経営改善指導を実施。	(計画)令和7年3月18日の臨時総会において、令和7年9月30日をもって公社を解散することを決定。	
	財政支出見直し	運営補助金の見直し検討	見直し済み	見直し済み	見直し済み	
④情報公開推進	ホームページでの情報公開の充実	(実績)ホームページにより、適宜情報公開を実施した。	(計画)ホームページでの情報公開の更なる充実を図る。 (実績)ホームページにより、適宜情報公開を実施した。	(計画)ホームページでの情報公開の更なる充実を図る。		

	(人)	令和6年度				令和7年度			
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
人的支援	役員数	11	2	0	9	11	2	0	9
	常勤	1	0	0	1	1	0	0	1
	非常勤	10	2	0	8	10	2	0	8
	職員数	12	0	0	12	13	0	0	13
財政支出等	(千円)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	県委託料	0	0	0	県借入金残高	0	0	0	
	県補助金	15,928	22,407	13,289	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	0	0	0	
	その他の県からの支援等	宮崎県酪農公社強化育成事業に係る県からの借入金120,000千円 (R6. 4. 1~R7. 3. 31)							
主な県財政支出の内容	事業名		事業内容			令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	種別	
	①	宮崎県酪農公社運営強化対策事業	酪農公社施設整備等に係る起債償還額の一部助成			2,769	2,769	補助金	
	②	乳用後継牛育成預託支援緊急対策事業	県内酪農家の物価高騰による影響緩和を図るため、酪農公社が実施する乳用後継牛育成預託事業の預託料の値上げ相当分に係る経費の一部助成			10,520	0	補助金	
	③								
	④								
	⑤								

実施事業	①預託事業(農家からの乳用牛の哺育、育成預託) ②乳用素牛供給事業 ③生乳生産・販売事業 ④和牛子牛生産・販売事業 ⑤自給飼料生産事業
------	---

活動指標	指標名	算式(単位)	令和6年度			令和7年度	令和8年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
①	預託牛入牧延べ頭数	頭	255,500	195,132	76.4%	—	—
②	年間生乳出荷数量	トン	1,000	674	67.4%	—	—
③						—	—

指標の設定に関する留意事項 令和4年3月に策定した経営改善計画の数値を基に目標を設定。なお、令和7年9月30日の公社解散に伴い、令和7年度の目標値は未設定。

財務状況	正味財産増減計算書 (千円)			貸借対照表 (千円)				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	経常収益	459,504	407,841	380,534	資産	331,205	291,009	214,363
	経常費用	483,743	438,929	432,381	流動資産	156,153	142,888	99,985
	当期経常増減額	-24,239	-31,088	-51,847	固定資産	175,052	148,121	114,379
	経常外収益	797	358	788	負債	489,365	484,888	466,429
	経常外費用	6,226	4,918	7,056	流動負債	426,825	429,146	420,239
	当期経常外増減額	-5,429	-4,561	-6,268	固定負債	62,540	55,742	46,190
	税引前当期一般正味財産増減額	-29,668	-35,648	-58,115	正味財産	-158,160	-193,879	-252,065
	法人税・住民税及び事業税	71	71	71	指定正味財産	160,580	160,580	160,580
	当期一般正味財産増減額	-29,739	-35,719	-58,186	(うち基本財産への充当額)	0	0	0
	一般正味財産期首残高	0	0	0	(うち特定資産への充当額)	0	0	0
	一般正味財産期末残高	-29,739	-35,719	-58,186	一般正味財産	-318,740	-354,459	-412,645
	当期指定正味財産増減額	0	0	0	(うち基本財産への充当額)	0	0	0
	指定正味財産期首残高	0	0	0	(うち特定資産への充当額)	0	0	0
	指定正味財産期末残高	0	0	0				
	正味財産期末残高	-29,739	-35,719	-58,186				

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名	算式（単位）	令和6年度			令和7年度	令和8年度	
			目標値	実績値※	達成度(%)	目標値	目標値	
①	当期収支差額	当期純利益（千円）	8,725.2	-58,186.2	-666.9%	—	—	
	※ 令和6年度 実績値の算式	-58186						
②	自己収入比率	自主事業収入／総支出額×100（%）	101.5	81.9	80.7%	—	—	
	※ 令和6年度 実績値の算式	354,324千円／(345,495千円+86,885千円)×100						
③	管理費比率	管理費／総支出額×100（%）	23.1	20.1	113.0%	—	—	
	※ 令和6年度 実績値の算式	86,885千円／(345,495千円+86,885千円)×100						
指標の設定に関する留意事項		当公社の課題は累積欠損金の早期解消であり、令和4年3月に策定した第4次経営改善計画に基づき、当期収支差額の黒字化を目標としていた。なお、令和7年9月30日をもって公社は解散するため、令和7年度以降の目標値は策定していない。						

直近の県監査の状況	令和6年度財政援助団体等監査（令和6年10月3日）において、軽油取引税にかかる消費税の処理方法の誤りについて指摘を受けた。
-----------	---

総合評価	公社等自己評価	<p>令和6年度においては、前期からの基本方針を継続しながら、JAとの連携による乳牛預託確保の取組や人材育成及び人財確保を図り、酪農家の負託に応え、生産基盤維持強化のため、預託事業のさらなる充実・強化を中心に、各個人・部門のレベルアップと部門間連携による効率化を目指す事業を展開した。</p> <p>しかしながら、各種飼料や資材等の高騰が収まらない中、預託農家の経営状況もさらに悪化していることで預託控えも加速し、令和5年度に引続き赤字での決算となった。</p> <p>そのため、預託農家や出資団体の将来の負担抑制や酪農生産基盤を維持するため、令和7年3月の臨時総会において、当公社の解散を決定。今後は、預託農家に影響を与えることが無いようJA等と連携を強化し、解散に向け各部門の業務も順次縮小していく。</p>				県所管部課二次評価	<p>令和6年度、公社は、預託事業の利用拡大に取り組むとともに、乳用牛部門や肉用牛部門において計画的な淘汰を進めるなど、各部門におけるコスト縮減に取り組んだ。県としても、都城市やJA等の関係機関との連携のもと、経営改善チーム会議による経営指導等を実施した。</p> <p>しかしながら、飼料や資材価格の高止まりに加え、県内の酪農家戸数や乳用牛飼養頭数の減少が進んだこと等により、預託牛の確保ができず、5,818万円余りの損失を計上した。</p> <p>酪農情勢の好転が見通せない中、預託農家や出資団体の将来の負担抑制や酪農生産基盤を維持するため、令和7年3月の臨時総会において、令和7年9月30日の解散が決定。これまで公社の基幹事業であった預託事業は、全酪連の預託事業に移行することとなり、公社を利用していた預託農家への影響がないよう、JAや市町村と連携しながら、必要な対策を講じていく必要がある。</p>			
	評価（A、良好、Bほぼ良好、Cやや課題あり、D課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営	評価（A、良好、Bほぼ良好、Cやや課題あり、D課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営
		B	B	C	B		B	B	C	B
	目標達成度									